

1. 児童養護施設（ベトレヘム学園）の運営

【定員】

4月1日～12月31日 定員56名（本園50名、地域小規模6名）

1月1日～3月31日 定員57名（本園45名、地域小規模6名×2）

【年間利用状況】（月初在籍人員）＜地域小規模＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
未就学	9	10	10	10	10	10	10	11	11	11	11	11	124
小学生	21 <3>	21 <3>	21 <3>	21 <3>	21 <3>	22 <3>	22 <3>	21 <3>	21 <3>	22 <8>	23 <8>	23 <8>	259 <51>
中学生	7 <1>	7 <1>	7 <1>	7 <1>	7 <1>	7 <1>	7 <1>	7 <1>	8 <1>	8 <4>	8 <4>	8 <4>	88 <21>
高校生	13 <1>	13 <1>	13 <1>	13 <1>	13 <1>	12 <1>	11 <1>	11 <1>	11 <1>	12 <1>	12 <1>	12 <1>	146 <12>
措置延長	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
停止	1	1	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	7
合計	52 <5>	53 <5>	53 <5>	54 <5>	53 <5>	52 <5>	50 <5>	50 <5>	51 <5>	53 <12>	54 <12>	54 <12>	629 <81>

【施設運営状況】

- ・新園舎への引越しは、12月に計画通り滞りなく遂行することが出来た。師走の忙しい時期だったが、子どもたちも自分の荷物は自分で荷造りし、“新しいお家”への期待感もあって、前向きに取り組んでいた。幸い感染症が流行することも無く、職員も皆で力を合わせて乗り切ることが出来た。
- ・新園舎引越しと平行して、2棟目のグループホームも何とか開設にこぎつけたが、10月の天候不良続きで工事が遅れ、引渡しが12月20日と新園舎引越しよりも後になり、皆が引っ越した後の旧園舎で3日間過ごすことになってしまった。その上電話開設や家具の納入が間に合わず、玄関ポーチの未整備等環境が整わない中であつたが、職員も子どもたちも不満を言うことなく、元気に新しい生活をスタートさせることが出来た。
- ・ナザレットの家乳児院との連携は、同じ建物を共有する難しさを痛感するスタートであつたが、話し合いを重ねルール作りをすることで、0歳～18歳の子どもたちが共に暮らす環境を考えているが、感染症予防等まだまだ課題は残っている。
- ・専門機能強化型事業に関しては、小児精神科医師とのカンファレンスについて検証が必要ではないかとの意見があり、個人によって目的の受け止め方が異なることが指摘されている。30年度は専門機能強化型を申請して10年目の節目なので、改めて全職員に向けてこの事業の意味・目的について周知する必要がある。
- ・6月26日ビジョン・ミッションに関する研修を園内で行い、グループに分かれて目標の

現時点での達成状況と、今後の計画について話し合った。その後7月6日の運営会議にて、各グループで話し合った内容をまとめ、30年度に向けての計画を新たに設定した。

- ・8月から完全ホーム調理を開始し、買い物からホームで行っている。調理員は所属を特に決めず、一ヶ月ごとに副主任と栄養士で勤務の調整を行った。栄養士も月の3分の1はホームでの調理に入る他、職員の急な休みで調理員が必要な時には急遽ホームに入る等、柔軟に対応できるようにした。

【利用者支援状況】

- ・入所 4/28 TY(2歳女) 6/15 IH(年中男) 8/31 YY(小2女) 10/25 NM(年中男)
11/20 TK(中2女) 12/6 NM(年中男) 12/18 NH(高1男) 12/22 KN(小2女)
1/24 KR(小3女) 2/5 YK(小4男) 3/8 YH(高1男) 3/15 NT(2歳男)
3/27 MY(新中1男) 3/28 KY(新小1女) KR(新年長男)
- ・退所 <他施設へ変更> 7/20(16歳女) 9/11(年長女) 9/19(高3男) 2/28(小5女)
<家庭復帰> 8/31(高1女) 10/7(小1男) 3/15(3歳男) 3/24(新中1)
<自立> 8/25(18歳女) 3/19(18歳男) 3/30(18歳女)
- ・措置延長 HR(18歳男)…通勤寮の空き待ち ON(18歳女)…生活が安定するまで(4月下旬)

【地域との連携】

- ・白梅自治会とは、7月29日納涼大会の共催、11月3日どんぐり祭への協力、2月18日合同防災炊き出し訓練を行うことができた。1月に行っていた餅つき正月遊び行事は、場所の関係で実行できなかった。
- ・清瀬市社会福祉法人による社会貢献事業は、10月16日に“ひとまず相談窓口”33事業所に設置された。ベトレーム学園への相談はまだ無いが、ベトレームの園病院を初めとする他事業所には、10月～12月の集計で9件あった。
- ・地域交流ホールは、1月19日に児童部会書記会に貸し出し約100名の利用があった。30年6月からは、清瀬市より高齢者活動のために貸してほしいとの依頼が入っている。

【職員の質の向上】

- ・退職者は2名<ホームのリーダー職員(女性)経験6年、心理職(男性)経験2年>であった。どちらも私事の都合であるが、特に女性のほうは家族の事情で専門職を希望するものであったので、学園内の職種変更または乳児院への移動等、残留の余地はあったので残念であった。しかし現場の職員特に中堅職員の成長著しく、自分のやるべきことを理解し確実に遂行してくれ、特に引越しの際にそれを実感することが出来た。
- ・キャリアパスの構築は完成に至っていないが、社会的養護にも処遇改善が導入され、指定研修への参加が必須になったので、これまでの研修履歴を整理し漏れの無いようにする。
- ・処遇改善費は民改費の2%増額と、夜間勤務をしている職員への手当のみ実行すること

が出来た。来年度は、リーダー的職務を担う職員への手当も実行したい。

【施設・設備整備】

- ・12月1日 新園舎引渡し、5日祝別・落成式、7～8日内覧会、14日管理部門引越し、15～17日 児童ユニット引越し
- ・12月20日 新グループホーム『すみれ』開設

工 事 (修繕・修理を含む)		備 品 購 入	
件 名 (時 期)	金 額	件 名 (時 期)	金 額
		・ふりーじあ風呂釜 (6月)	270
		・AED (9月)	273
		・洗濯機 (12月)	108
		・洗濯機 (12月)	108
		・洗濯機 (12月)	108
		・冷蔵庫 (1月)	131

注：工事は1件100万円以上、物品購入等は1件10万 (単位：千円)

【平成 29 年度福祉サービス第三者評価講評】

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの声に応えるしくみや職員の真摯な対応が信頼感を高め、利用者調査結果に成果として現れている
	内容	今年度、全体目標に「とにかく話そう」を掲げ、職員は子どもの向き合う時間、機会を意識して設けることを心がけている。また、おたより箱に寄せられた意見に対し、これまで以上に迅速な対応を図ることで、子どもの安心と信頼を高めていくことを目指して取り組んでいる。職員が日常の中で子どもの声に耳を傾け、真摯に向き合い、話し合って実現へとつなげている実践状況が記録物からは読み取れる。今回の利用者調査結果でもトラブルや要望・不満への対応における子どもたちの満足度が前年度より上昇しており、目標に沿った取り組みの成果が現れて来ている。
2	タイトル	積極的なボランティアの受け入れ、活動展開により、子どもの生活の充実が図られている
	内容	ボランティアの受け入れは、事業計画に位置づけ、活動申込書の用意やボランティア保険の加入等、体制を整備して積極的な受け入れを行っている。なかには 10 年以上活動を続けるボランティアもおり、グループで意見交換を行う場を設ける等、活動継続へのモチベーションに配慮した対応を図っている。子どもにとって学習機会の獲得はもちろん、さまざまな大人とかかわり、社会性を高めるとともに、ボランティアとかかわりを通して、職員もまた成長が促される効果を得られる等、子どもの生活の充実にとってかけがえのない存在となっている。
3	タイトル	早い段階で進路を踏まえてシミュレーション表を作成し、自立支援の準備をすすめている
	内容	一昨年度より、中学 3 年、高校 3 年等、進路の検討が必要な時期に「進路計画書」を作成し、早い段階から準備に入る体制整備をすすめている。また自立支援コーディネーターが専属となり、進路に関わる情報提供や相談対応に携わってきた実績から、子どもの中でも進路担当としての認識が深まっており、子どもと担当職員との間で意見に相違が生じた際はサポートする等、着実な進路支援を行っている。また、学費や生活費等も盛り込んだシミュレーション表の作成により、現実性を伴った検討を図る等、子どもの希望の実現に向けた自立を目指している。
更なる改善が望まれる点		
	タイトル	「全体目標」と各ホームの目標との連動性を図り、子どもが生活の主体として施設運営に参画する構図を組織体制に組み込まれたい

1	内 容	<p>施設では、前年度の生活状況等を踏まえ、毎年年初に「全体目標」を掲げ、プレゼンテーションソフトにより子どもにわかりやすく周知する場を設けている。また、各ホームでも、子どもと職員とで前年度を振り返り、話し合っ「ホーム目標」を設定しているが、それらが必ずしも連動していない点は課題として挙げられる。今後は、「全体目標」と各ホームの目標との連動性が図られる仕組みの工夫を検討し、各ホームの目標達成が全体の目標達成とつながる状況を創出することで、子どもが生活の主体として施設運営に参画する構図を組織体制に組み込まれたい。</p>
2	タイトル	<p>施設間の相互連携により相乗効果をもたらすような企画・実践に向け、施設側から乳児院への働きかけが期待される。</p>
	内 容	<p>新園舎は、同法人の乳児院との合築となっているが、同じ児童福祉施設でありながら、乳児院とはこれまで交流の機会がなかったため、移転後は、園舎内の共有スペースの使用方法や、地域との関りにおける考え方、具体的な取り組み等について、経営層間の認識・共有を深め、職員間のコミュニケーションを促進して、より良い方向性をともに見出すことが期待される。また、地域貢献活動についても話し合いを重ね、地域環境や地域ニーズを踏まえ、相互連携により相乗効果をもたらすような企画・実践に向け、施設側からの積極的な働きかけが期待される。</p>
3	タイトル	<p>新園舎への移転、生活環境の変化で生じる子どもの心身状況へのサポート体制の整備が期待される</p>
	内 容	<p>施設は、今年度後期に新園舎への移転という大きな転機を迎えており、子どもの心身状況、職員体制によっては調整を要することを念頭に置いているものの、原則、現状のホーム体制を継続していくこととし、生活の連続性を重視している。そうした中、心理職員の間では、大きな生活環境から生じる子どもの心身状況の変化に対応していくために、各ホームの子ども、職員の安全・安心な生活をサポートする必要性について強く認識している。心理職員を中心としたサポート体制の整備により、新園舎への移転と、新たな生活の定着が円滑にすすむことが期待される。</p>